

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

大丈夫。一緒に考えよう。
ひとりぼっちじゃないんだよ。あなたは大切な人。

News Carillon No.55

『非日常』も大切に

～夕やけ荘便り Part.40～

とにかく暑かった……そして長かった夏が終わり、
年末年始がもうすぐそこに迫っています。

こう暑いと楽しいイベントでもないとやられてない
ね！というわけでイベント盛りだくさんだった2024年
夏の夕やけ荘をご報告いたします。

7月 Restaurant Karyon からのご招待

Restaurant Karyon (レストラン カリヨン) は、都心
にあるフレンチレストランです。綴りは違えど、法人名
(Carillon) と同じ名前というご縁がありまして、招待を
いただきました。子どもたちとお店のホームページを拝
見して、「お洒落!」「何着て行けばいいかな」と行く前
から大盛り上がり。

当日お店に入ると、照明やテーブル、生け花等の設
えも、ため息がでてしまうほどまあ見事でありました。

その日のために準備いただいたコースは言わずもが
なのクオリティ……。初めて見聞きする用語も多く、アペ
リティフ? パリソワール? とキョロキョロしながらスタッ
フの方の説明に耳を傾けておりました。

美味しかったコース料理中でも印象に残っているの
は、トウモロコシのデクリネゾンという一皿です。デグリ
ネゾンとは、同じ食材を異なった調理法でつくったもの
を盛り合わせた料理、とのこと。

「異なる鐘の音がハーモニーとなって広がっていくよ
うに」との願いを込められ名付けられた我が Carillon
の由来と似ているような気がして、嬉しくなりました。

レストランカリヨンの皆さん、最高のおもてなしをあり
がとうございました!



「トウモロコシの
デクリネゾン」



「Restaurant Karyon の皆さんと」

8月 映画鑑賞&外食ディナー

株式会社イーネットからご寄付いただき、映画鑑賞と
外食ディナーへ出かけました。映画を観て感想をシェア



し、考察合戦。日々仕事に学
校に頑張っている子どもたち
を労いながら美味しい料理を
堪能し、素敵な思い出ができ
ました♪ イーネットの皆様、
ありがとうございました。

INDEX

- 『『非日常』も大切に (夕やけ荘便り Part.40)』 …… 1
- 子どもの家ガールズとともに Part.46 「心がうごく瞬間」 …… 3
- 子どもシelter全国ネットワーク会議 in 埼玉 そして、全国自立援助ホーム協議会全国大会第 29 回福岡大会 …… 4
- 子どもの家ボーイズから Part.31 「会話あれこれ」 …… 5
- ろくえもんの秋祭り …… 6
- とびらの家通信 Part.44 「花に時あり」 …… 7

9月 2泊3日金沢旅行

1日目は兼六園や金沢城、2日目は各々自由行動、3日目はみんなで浴衣を着て街歩きを楽しむなど盛りだくさんでした!

この3日間で子どもたちと一緒に金沢のグルメや伝統工芸などに触れ、美味しさや素晴らしさを共有することができました。のどぐろや金沢おでん、金箔一枚が豪華に乗った金箔ソフトなど色々と食べましたが、個人的なグルメランキング 1位は能登牛のステーキです! 口の中ですぐとろけるあの感覚、忘れられません!

さて、金沢では祝儀袋などに用いられる飾り紐、水引が有名ということをご存知でしょうか? 明治時代から大正時代にかけて、立体的な水引が加賀の工房で考案、全国に広まったのだそうです。2日目に子どもたちから「水引でイヤリングを作る体験を一緒にやろうよ」と誘ってもらい、職員も参加してきました。不器用な私は、お店のスタッフさんにほとんど手伝っていただきました。子どもたちは「明日着る浴衣に合う色がいいよね～」などと話しながら、スタッフさんから教わった通り、細く長い紐を一生懸命結び、丁寧に形を整えて、見事綺麗なイヤリングを作成していました。選んだ色や結び具合



にもそれぞれ個性が出ており、選んだ色の理由などのこだわりを話したり、お互い作成したイヤリングを褒めたりするなどして楽しい時間を過ごせました。

私たちが作成した水引イヤリングの結びは「梅結び」というもので、複雑な結びということから『固く結ばれた絆』、魔除けのモチーフであることから『魔除け』、寒い冬を乗り越えて美しい花を咲かせることから『運命向上』の3つの意味が込められているそうです。梅結びに込められた意味のように、私はこれからも子どもたちと真摯に向き合い、



「3日目、それぞれ好みの浴衣を着て、ひがし茶屋街を散策」

子どもたちとの絆を大切にしていきたい。また子どもたちは様々な壁に当たることがあると思いますが、その壁を乗り越えて運命向上できるよう、一緒に考えることを大切にしていきたいと改めて思いました。(文責:諸橋)

当初の予定では能登地方での活動も計画していましたが、豪雨と重なり断念せざるを得ませんでした。3日目の早朝に七尾まで入ることができましたが、倒壊した家屋が手付かずだったり、大きな建物にひびが入っていたりとまだまだ復興途中であることを目の当たりにしました。今後も自分にできることはないか、子どもたちと考えていきたいと思えます。



今回の旅行は真如苑の自立援助ホーム支援助成をいただいて実施いたしました。真如苑の皆様、ありがとうございました。

各イベントに際して、参加した子どもたちも仕事の調整をしたり予定を空けてくれたりして協力してくれました。感謝です、ありがとう。

全国自立援助ホーム協議会では、自立援助ホーム運営者が大切にしていることのひとつに「あたり前の生活」があるといいます。ホーム内が安全で安心を感じられる場であることが「あたり前」であるように、職員、ボランティアスタッフは毎日の食事づくりや掃除に励み、子どもたちとの対話を大切にしています。

子どもたちは仕事や学校、食事、雑談や団欒といった日常を積み重ねて、職員との関係を築き、自立に向けて力を蓄えますが、イベントや旅行等で社会体験をし、見聞を広げることも成長には欠かせません。

法人として行うイベントや行事は、各ホームの退居者が顔を見せてくれる貴重な機会となっています。退居者と面会した際にはこういったイベントが話題に挙がることも多いです。

行事開催への助成や寄付だけでなく、日頃からお米や季節の果物などを定期的に届けてくださる皆様への感謝や、多くの方の支えがあって夕やけ荘が成り立っていることを忘れずに、これからも、日常も非日常も大切にしながら頑張っ

子どもの家ガールズとともに Part.46

心がうごく瞬間

「シェルターに、サンタクロースはやってくるの？」と、慌てん坊の利用者さんが考え始めている今日この頃。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今回は、利用者さんと生活を共にするなかで、どのような時に笑ったり、考えさせられたりしているのかについて、皆様にご紹介いたします。

なかなかイメージが湧かないシェルターでの生活を、身近に感じていただく一助となれば幸いです。そして、エピソードを読んで、ふっと笑っていただけたのなら、嬉しい限りです。

～食事編～

🍴 入居当時は、2～3個ずつだった好きな食べ物、嫌いな食べ物のリスト。いつの間にか、枠に収まらない程に増えていく。ちょっとでも美味しいと思う食べ物に出会うと、すぐにリストへ記入。また作ってねという意思表示なのかもしれません。

🍴 「『天気の子』に出てくるご飯食べたい！」と、ヒロインの陽菜ちゃんになりきって、お手伝い。炒飯とサラダにポテトチップスやチキンラーメンを振りかけるだけで、「今から晴れるよ」と言わずにはいられなくなります。

🍴 誕生日の朝に腹痛を訴える利用者さん。「アイスクレーキは食べられます！」別腹は痛みも別なのかもしれません。

🍴 OGと久しぶりに会って食事をする。ピリ辛の pasta を見て、「辛いのが苦手だけど大丈夫ですか」と職員を気遣ってくれる。覚えていてくれてありがとうと、ほっこりした気持ちになる。辛い料理で、私は身も心も温まります。

～娯楽編～

🎮 ゲームの Switch スポーツで運動。テレビ画面のキャラクターを見るより、利用者さんたちの華やかなジャンプを見ている方が何倍も面白い。

📺 図らずも、新聞、ラジオにはまっていく10代。デジタルデトックスを人生で経験できるメリットは、想像以上に大きいかもしれない。

🎵 音楽番組を視聴しながら熱唱。そのまま遠慮せずに歌って下さいと思うのでした。

🐏 羊毛フェルトで作った動物たち(写真)。思い出として転居先に持っていく人。「これを見て、私のこと思い出して下さいね」と、置いていく人。様々です。普段できないことをやってみるのが、シェルターの醍醐味なのかもしれません。



👤 玄関には、来訪者の頭を悩ませる「破火破露鵲

因」の文字。みなさんは解読できますか？ヒントは、10月31日のイベントです。おどろおどろしい当て字を、一生懸命考えていました。

👤 とんがり帽子を職員に被せて、「グリフィンドール!」「スリザリン!」

～生活編～

🏠 利用者さんの夢の中に職員が登場。「一緒にエイリアンから逃げてました！」せめて夢の中では、何かの役に立ってあげればいいのになあと思うのでした。

👣 足音や、扉を開閉する勢いで、誰がどこにいるのか分かる。トイレスリッパの置き方で、誰が使ったのか分かる。

😊 「明日も待ってまーす」と笑顔で見送られる。何のために仕事をしているのか、思い返させてもらった気がする。

🍀 「どっちでもいいよって、私の考えを聞いてくれて嬉しかった」と話してくれる。それが当たり前ではなかった利用者さんの生活を思い、複雑な感情になる。

🌻 入居当初は自分から話さなかった利用者さんと、生きるとは何かを語り合う。悠久の暇な時間が、ソクラテスやプラトンのような哲学者を生んだことに納得です。

何気なく生活を共にしているつもりでも、互いに心を動かし合っているのだと感じております。

本稿を書いている間にも「今晚泊まる場所がない」と、入居希望の連絡が入りました。新しい出会いは突然やってきます。次回は、どのようなエピソードを皆様にご紹介できるのでしょうか。楽しみにしております。

日頃より、温かいご支援を通してシェルターの日常をお守りいただき、心より感謝申し上げます。



(ガールズ職員 丹野)

子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 埼玉 そして、 全国自立援助ホーム協議会全国大会 第29回福岡大会

子どもシェルター、自立援助ホームを運営している、全国の先輩、仲間たちと交流、研鑽の機会に、感謝をもって参加させていただきました。

2024年9月28日～29日には、『子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 埼玉』が開催されました。NPO 法人子どもセンター・ピッピが実行団体となり、全国27団体から139名の参加者が集まりました。(オブザーブ参加含む)

「子どもシェルター全国ネットワーク会議」は子どもシェルター運営法人がゆるやかに連携、支えあうためのネットワーク組織です。カリヨン子どもセンターが事務局を兼ねています。

例年、全国会議内に年次総会を実施するようしており、今回は子どもシェルター第三者評価モデル実施(キリン福祉財団助成)、子どもシェルター立ちあげ支援(休眠預金活用事業)、朝日新聞厚生文化事業団まなび応援金の運営委員会への参加等、ネットワークとして近年取り組んでいる事業の進捗報告と今後の予定を確認しました。



こども家庭庁から行政説明のためのご登壇をいただき、特に「子ども若者シェルター支援事業」について関心高く拝聴いたしました。「こども若者シェルター支援事業」は、こども家庭庁が、既存の子どもシェルターとは別に10～20代の若者の居場所として設定したのですが、方針や目的が今一つぼんやりとしている点を懸念しつつ、てんぼ(神奈川の子どもシェルター)やカリヨンから、こども家庭庁の検討会に参加しています。

緊急避難の場所を必要としている子ども、若者が相談する場所、身を寄せる場所の選択肢は、子どもシェルターが活動を開始した20年前と比べると増えています。児童相談所の一時保護所の定員増や個室化等の改善、民間のシェアハウス等、制度や支援メニューにはグラデーションがあり、困っている子ども、若者が自分のニーズや緊急性に応じて、相談先、行き先を選ぶことができることは望ましいことです。そのような社会構造の変化の中で、“子どもシェルター”に求められる役割はどのようなことなのか、ということを見つめる

段階に入っていると感じました。

また、「持続的運営」という共通テーマのもと、入居者増のための努力や“暫定定員”問題、入居打診受付・入居判断システム、ケース検討の3つの分科会にわかれ、充実した意見交換の時間を持ちました。カリヨンでは、男子シェルターリニューアルプロジェクトを経て、児童相談所からの入居打診～判断のプロセスがシンプルになるように変更したところでしたので、各法人の入居打診判断システムをどのようにしているのか、という情報がとても参考になりました。

11月5日～6日は『全国自立援助ホーム協議会全国大会 第29回福岡大会』、総勢300名を超える全国規模の大会です。カリヨンからも職員、理事が参加しました。

三浦一広さん(奄美青少年支援センターゆずり葉の郷)の基調講演では自立援助ホームの制度を導入する前から、30年にわたって地域の子どもの更生、自立支援に命をかけて向き合ってきた大先輩のお話に胸が熱くなりました。坂口明夫さん(福岡県大牟田市子ども家庭支援センターあまぎやま)の実践報告および、2日目に行われたシンポジウムでは「地域支援」というテーマで、それぞれの地域で、官民、施設種別、法人の垣根をこえて、困っている当事者の思いや状況を真ん中に、皆で知恵や力を出し合うという社会的養育支援モデルを学びました。

子どもの思いを真ん中に、多機関多職種が連携することは、ずっと前からカリヨンの大切な理念のひとつです。その在り方は、地域支援においても有効なのだとしたら……。カリヨンの法人、施設運営に、もう一歩ずつ踏み出していく余力があったら……。地域支援の課題に携わることができるとしたら……。と、頭をフル回転させながら、新鮮な気持ちで日々のはたらきに戻ってきました。



子どもの家ボーイズから Part.31

会話あれこれ

1、ラポールの誕生

子どもシェルターでは事件事故防止のためカミソリの類は事務室お預かりです。使う時に受け取って、使用後はまた事務室に預ける。あけっぱなしの事務室ドアを利用者さんがノックする。(職員在室中はだいたい開いています)

コンコン「お風呂に入るのでヒゲソリ出して下さい」

はい、少々お待ちください。…がさごそ… はいよ、ごゆっくりどうぞ。

「はい」スタスタスタ…

いってらっしゃいましー。

「いってきましー」ボタン。

海外から来た利用者さんでした。日本語ペラペラでしたが。この「ましー」が適切な活用かどうか、当職は訂正できなかつた。文法的には甚だ疑問だが、ラポールを形成する会話の流れ的にはベストに近いと判断しました。

2、ねないこだれだ

秋の夜長のことだった。消灯の数時間後、事務室のドアがノックされる。さっきトイレに行った利用者さんだ。

はいー？ ガチャ。

「先生まだ起きてんのかよ」

(職員を先生と呼ぶ利用者さんはいます。名前を憶えていないのか、名前を呼ぶのは心理的に抵抗があるのか。先生と呼んでもなんら問題ないですが、日本では昔から「先生と呼ばれるほどの馬鹿は無し」という伝承があると祖母(教員)から教わったのを呼ばれるたびに思い出します。海外からの利用者さんでは、年長者の名前を直接呼んだら失礼になる文化で育ったため先生と呼ぶ人もいます。なお自分が利用者さんだったら断然職員を先生と呼びたい派です。)

起きてますよ、家計簿つけてます。1円でもズレたら監督省庁の人にけっこうすごい感じで怒られるから。皆さんの貴重な税金を頂いてますから。

「そうなんだ、先生も大変だな。」

先生も楽じゃないですよ。

…先生さあ、と利用者さんはとどまって話し始めた。職員としては早く部屋に戻って就寝するのを勧めたいところだが……。

「先生さあ、……人間はなー…」

はい。(なんか哲学的な大規模な話が始まるのかこの時間から？ せめて箴言であれ)

「早く寝ないとなー …」

はい。(意外と美容や健康の話かな?)

「……」

……

「早く寝ろって言われんの！」

え～っ

「ほんとほんと。早く寝た方がいいよ」

そうか、ありがとうございます、じゃあもう寝るわ。〇〇くんも早く寝な。

「はい、おやすみまたねー」

おやすみー

職歴幾千日夜、児童福祉の宿直の夜はこうして更ける夜もある。

3、翻訳今昔

今は昔、電話では埒があかない事案が生じ、利用者さんと一緒に大きな公共機関に直接相談に行くことにしました。道すがら利用者さんから質問です。

「きょうは何しに行きますか？」

利用者さんは海外出身。母国語以外に英語を話せますが日本語は勉強中です。何しに行くか、きのう長々と説明されたけど分からなかったですよ。気になりますよね。職員は日本語未習熟の人にも分かりやすい説明を熟慮した結果、

ガッデ〜ム、と言いに行きます。と説明しました。

利用者さんは広い歩道に立ち止まり、長考のすえ真剣な表情でこう言った。

「あなたはその言葉を言ってはいけない。それは悪い言葉です。」

職員は反省し(冗談ですよ。あなたに分かりやすいようにと思っただけ、あなたが緊張してるからリラックス効果を狙って言うてみただけで実際には言わんですよ… 心の中で使うのもダメってことだったのか、今にして思えば。)、その日の相談ではていねいな話法・声調で話し合うことができ、事案はつつがなく解決しました。どんな事案だったかは地平線の彼方に消え、利用者さんのご意見のみここにあります。↑

(子どもの家ボーイズから Part.31「会話あれこれ」前頁より続き)

似た話で、ウフフ、これは何ですか？ と海外出身の利用者さんに尋ねられた職員さんが、「たしかにこの料理は失敗に見えるけどじろじろ見ないで美味しいなと思って食べてくれ、味は平気だから」と答えたかったのだが翻訳するには長すぎるので一語に要約して、サプライズ！ と回答したことがありました。こちらは職員さんと利用者さん双方のお気持ちが相手に適切に伝わったようでした。🍁 (ボーイズ職員一同)

ろくえもんの秋祭り



天高く馬肥える秋。今年は12月に20周年記念イベントを控えているため、クリスマスパーティーに替えて、“秋祭り”というコンセプトでカリヨンを利用中の子どもたち、あるいはかつて利用したことのある若者たちをお招きしました。

夏前から法人内で実行委員会を招集し、お祭りと言えば？ とアンケートを取るなどして、屋台風フードとゲームコーナーを企画しました。景品やお土産を手配するために1週間前に、食材の買い出しのために前日にもう1回、コストコさんへお買い物に出かけました。焼きそば、ひとくち焼肉、鶏のから揚げ&



フライドポテト、チョコバナナ、冷やしパン、七輪でサンマや海鮮も焼きました。美味しかった！ 手作りのゲームコーナーには、ヨーヨー

釣り、千本くじ、輪投げ。豪華景品の中でも1等賞の“ディズニーペアチケット”は絶対に取れない設定になっているんじゃないかと勘繰る声も。

くつろぎコーナーでは、とびらの家 西さんの Flower ワークショップコーナーが賑わっていました。またボランティアの皆さんが、重陽の節句のお祝いとして、お花や雛飾りを設え、眼精疲労に効果のある菊茶をふるまってくださいました。

子ども・若者や、その家族、職員や理事、ボランティアスタッフ、子ども担当弁護士などのおとなたち、総勢70名が集った秋の楽しい一日になりました。🍁 (カリヨンハウス職員一同)

2024年4月1日～8月14日、「カリヨン子どもの家ボーイズ」を休止し、法人内でチームを作り、リニューアルプロジェクトを実施しました。内容は、男子シェルター事業の振り返り、男女の入居打診記録から、傾向の比較、関係機関、連携機関からのヒアリング、リニューアル方針の検討、協議です。

プロジェクトにご協力くださいました、関係機関の皆様へ深く御礼申し上げます。再開にあたり、下記3つの方針をとりまとめました。

1. 一時保護所等で安全は確保されているが、長期化している等の事情で、居場所の変更が必要な相談も積極的に受け入れる。
2. 児童相談所からの相談受け入れフローを見直し、事務局の受付後、子どもシェルターと児童相談所が直接調整するようにする。
3. 秘匿性の保持は、現時点では子どもシェルターの最重要事項であると考え、スマホ所持、通学についてのルールは変更しない。

このプロジェクトを行うことで、子どもシェルターの役割について、立ち止まってじっくり向き合うことができました。ボーイズは8月15日に再開し、11月末までに4名の入居者を受け入れています。



Photo by Satoshi Oosaka

とびらの家通信 Part.44

花に時あり

はじめまして、とびらの家で9月から非常勤職員として勤務している西と申します。前職は少年院や少年鑑別所で、心理技官として勤務していました。その後、とびらの家で勤務する傍ら、いけばなの製作活動をしてきました。

現在は華道家としての活動を主軸にしながら、非常勤の心理職員としてとびらの家で勤務しています。



「花いけ:クレマチス」

カリヨン子どもセンターとの出会いは大学時代に遡ります。当時、理事長の坪井さんの著書を読んだことをきっかけに、カリヨンでのインターシップに参加しました。とびらの家で実際に勤務を始めたのは心理技官を退官した後のことでしたが、矯正機関とは違い、生活を共にする家庭的な雰囲気の中で、より直接的な支援につながる自立

援助ホームの関わりは、とても重要だと感じさせられました。



「とびらの家の庭で取れた金木犀の花びらでハーブティー」

そんな私がお花に興味を持ったのは、前職を病気で休職中のことです。身体的・精神的に落ち込むと、何かに興味を持つこと自体が難しくなり、全てをネガティブに捉えてしまいがちです。視野も狭くなり、自分の人生を悲観的に捉えてしまいやすいこの時期ですが、その最中の私にお花を送ってくださる方がいました。そのお花を見て、触れて、生活の中にお花があることが、当時の自分

にはとても大きな救いとなりました。

心理検査「ロールシャッハ・テスト」においても、有彩色カードが情緒面の豊かさに関連すると考えられていますが、精神的に落ち込むとき、全てが「白黒」に見え、「何かをしたい」「何かが好き」等の感情が動くことが極端に少なくなります。そのような状況から回復に向かう過程で、通常以上にお花の持つ「色」また「香り」「感触」などが鮮明に感じられ、「こんなに美しく繊細な色が世の中にあるのか」と衝撃を受けたことを覚えています。そもそも植物には、フラワーセラピーという言葉もあるなど、心身への良い影響を与えることは広く知られていますが、その要因の一つに、植物そのものが無機物ではなく、「生きた」存在であることが挙げられると思います。

「色」が多種多様であるだけでなく、その色味一つとっても、花によって微妙に違う。またそれらが、咲いて散っていくまでの中で少しずつ変化していく。それらの中で日光からエネルギーを得られるよう懸命に茎をのばす姿は、正のエネルギーを強く放っていると感じさせられます。



「ハロウインのカボチャ料理とおもちゃカボチャ」

現在はとびらの家での、心理学的な介入はもちろん、時には一緒に花を生けたり、山に行ったりする中で、個別のコミュニケーションを大切にしています。一緒に花を生ける機会では、惹かれるものや課題への向き合い方における個々の違いがより顕著で、かつ心理検査ほど構えが少なく、いわゆるライスケールが小さい感覚です。心理学的

な視点、華道家としての視点双方が試される、試行錯誤の日々です。↑



「庭先に植えた野牡丹」

(とびらの家通信
Part.44
「花に時あり」
前頁より続き)



「秋祭りワークショップにて」

先日の秋祭りのワークショップにおいても、カリヨンOB・OGとの花を通してのコミュニケーションは、私にとっても非常に学び多いときとなりました。



「とびら入居者の生けた花」

加えて、勤務するたびにその時期の旬の植物を一種類花器に生けるようにしています。弱っていたころの自分に生花が希望を与えてくれたように、いろんな状況にある入居者、また勤務する職員、ボランティアの方、それぞれの心に、正のエネルギーを与えてくれるよう、希望を込めて生けています。

荒れた生活空間の中に「美しく新鮮なお花」がある風景は、想像できません。食や寝床など、安心して生活できる空間の中に、少し植物がある。それだけのことが、当たり前と思える空間づくりを守りたい。またそのような働きが、必要とされる場所に広がり、小さな心の動きや余白を与えてくれることが、私にできるささやかながら唯一の働きだと思っています。🌸 (とびらの家 西)

大切なお知らせ

～施設名を変更します～

「カリヨン子どもの家」として出発し、男子シェルターを新しく立ち上げた際に「カリヨン子どもの家ガールズ」、「カリヨン子どもの家ボーイズ」と名称を分けた当法人のふたつの子どもシェルターが、活動開始20年の節目にて、施設名を変更します。

性別名称が施設名に入っていることが、社会の在り方になじまなくなり、子ども・若者たちからも違和感があるという声が寄せられたためです。名称は、2024年12月17日(火)開催の20周年記念イベント「ここに、これからも」内にて発表します！

次号ニューズレターからは、新しい施設名にて、活動報告をさせていただきます。新しい施設名になって、思いも新たに活動を充実させてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

編集後記

立冬も過ぎ、朝晩の冷え込みが身体にこたえる季節となりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。News Carillon55号をお届けします。

国連子どもの権利条約日本批准30周年の記念すべき年に社会福祉法人カリヨン子どもセンターは設立20周年を迎えることができました。カリヨン子どもセンターがめざす「困難を抱える子どもの権利保障」の理念の基盤は、子どもの権利条約にあることを、あらためて考えさせられます。子どもシェルターではこれまで550人以上の傷ついた子どもたちが羽を休めて、次へのステップに踏み出すお手伝いをしてきました。このような活動が20年に亘って継続できたのも、ひとえに支援者のみなさまのおかげと心より感謝申し上げます。これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。既に別便でご案内した通り、20周年記念イベント「ここに、これからも」を赤羽会館講堂にて開催いたします。お運びくださると幸いです。寒さに向かいます折から、皆さまにはくれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。(T.Y)

News Carillon No.55

本誌は、社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局が責任を持って編集、発行しています。本紙に関するご意見、ご要望、掲載を希望する情報などがありましたら、下記までご連絡ください。

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

東京都北区赤羽西3-33-3

TEL 03-6458-9120 FAX 03-6458-9121

2024年11月30日発行(無断転載はご遠慮ください)